

5 統計資料

(1) 人数, 平均点及び標準偏差

[表2] は, 人数, 平均点及び標準偏差の推移をまとめたものである。平成24年度は, 昨年度と比較して, 調査校全体で平均点は0.6点下降し, 標準偏差は0.4ポイント下降している。

人数, 平均点及び標準偏差の推移 [表2]

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
人数	33,233	31,004	29,980	30,555	30,474	32,015	31,050	30,914	31,305
全体	61.1	65.0	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1
標準偏差	22.2	23.1	22.7	22.4	23.2	21.4	25.0	23.6	23.2
普通科	62.5	66.8	67.4	62.0	57.1	58.5	63.0	64.0	63.2
標準偏差	22.0	22.7	22.3	22.0	22.7	21.2	24.5	23.1	22.7
総合学科				42.1	35.1	42.7	43.9	44.7	44.9
標準偏差				17.3	16.0	15.9	20.5	19.1	19.5
商業科系	44.4	49.5	47.9	43.6	34.3	40.9	42.9	44.3	43.1
標準偏差	15.5	17.5	16.7	15.3	15.0	14.1	19.0	16.9	16.8
家庭科系	42.7	46.7	48.7	43.7	37.0	40.3	38.9	43.3	41.8
標準偏差	17.2	19.3	20.3	18.4	15.5	15.9	19.7	19.0	18.4
英語科系	76.9	87.5	88.0	77.0	74.5	71.8	78.2	81.1	77.3
標準偏差	17.5	11.1	10.1	15.8	18.5	17.6	20.1	15.0	17.0
工業科系	52.3	54.8	48.4						
標準偏差	16.8	18.7	19.3						
他の学科	44.3	47.2	48.5	42.0	31.1	35.0	37.8	40.1	40.3
標準偏差	18.7	20.3	20.6	20.1	19.4	19.3	21.3	20.5	21.1

(注意1) 平成18年度以前の「総合学科」及び平成19年度以降の「工業科系」は, 「他の学科」に含まれる。

(注意2) 平成21年度については, 約10年前の生徒の学力との比較のため, 平成11年度を中心とした過去の問題を使用した。

(2) 平成24年度 学校平均点の分布状況

[表3] は, 学校平均点の分布状況をまとめたものである。同一学科の学校間で相当の得点差が見られる。なお, 普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)は, 74.9点(最高点91.0-最低点16.1)となっている([表4])。

学校平均点の分布状況 [表3]

得点域	-90	-85	-80	-75	-70	-65	-60	-55	-50	-45	-40	-35	-30	-25	-20	-15	-10	-5	合計
全体	2	7	8	9	11	14	9	11	11	11	8	12	8	7	7	4	0	0	139
普通科	2	6	8	9	10	11	6	10	7	6	4	7	5	3	5	3	0	0	102
総合学科	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	5
商業科系	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	6
家庭科系	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	0	2	1	1	0	0	0	12
英語科系	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
他の学科	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	3	1	1	0	0	11

(注意) 人数10名以下の学校(学科・コース)は含まれていない。

普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)の推移 [表4]

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
得点差	74.3	76.7	76.3	74.0	72.1	72.4	78.1	76.0	74.9

(3) 設問別正答率 (%) (過去との比較)

【表5】は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、今年度は、過年度と比較して設問【3】文法・語法と【8】聞き取りの正答率がやや高く、【1】発音の正答率がやや低いことが分かる。

設問別正答率 (%) の推移 (過去との比較)

【表5】

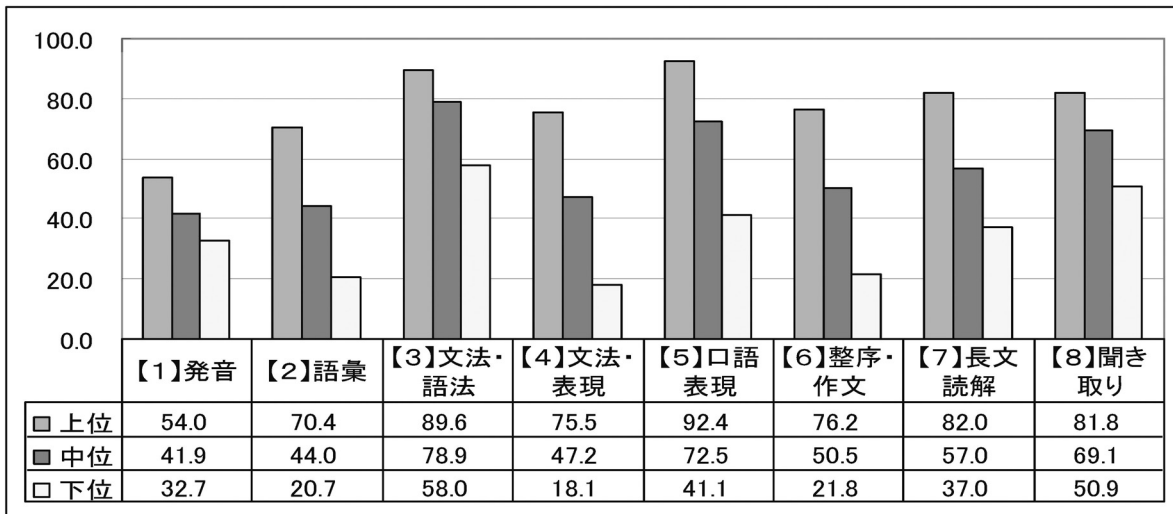
年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
抽出人数	3,407	3,182	3,075	3,108	3,102	3,252	3,158	3,284	3,227
全設問	61.1	65.0	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1
【1】発音	62.0	60.4	43.6	63.9	54.2	53.3	48.5	65.4	45.2
【2】語彙	47.9	62.6	58.7	59.6	44.5	53.0	54.0	46.4	50.6
【3】文法・語法	70.1	71.6	71.3	57.3	71.1	55.5	67.2	68.8	79.0
【4】文法・表現	58.3	61.5	63.9	54.4	49.4	42.6	66.8	47.9	53.3
【5】口語表現	82.6	86.3	89.9	62.4	67.6	86.4	76.7	70.7	74.4
【6】整序・作文	48.7	62.7	55.9	54.6	49.1	42.8	56.3	65.7	55.6
【7】長文読解	58.0	61.5	65.3	61.5	51.5	54.8	62.3	61.8	63.7
【8】聞き取り	67.6	53.3	79.0	65.7	52.7	72.1	50.6	60.0	70.7

(4) 平成24年度設問別正答率 (上位・中位・下位層の比較)

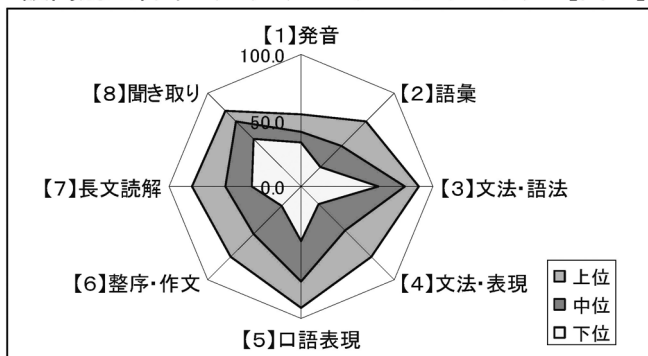
【図1】は、調査校143校(学科・コース)から抽出した3,227名中の学校平均点上位46校(偏差値55以上)に所属する1,441名(上位層)、学校平均点中位47校(偏差値45以上55未満)に所属する1,063名(中位層)及び学校平均点下位50校(偏差値45未満)に所属する723名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率 (%) (上位・中位・下位層の比較)

【図1】



設問別正答率 (%) (レーダーチャート) 【図2】



【図2】は【図1】をレーダーチャートにしたものである。各設問における各層の正答率を見ると、設問【2】語彙、【4】文法・表現、【6】整序・作文で各層の差が大きく、特に下位層の正答率が低い。また、設問【1】発音では、各層いずれも正答率が低くなっている。